

令和5年度
自己評価結果

中城ひらやすこども園

1. 教育・保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約(①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利)を遵守し、人格主義の基本理念(誠実・忍耐・勤勉)と良心を育てる。

2. 教育方針

本園の教育は園児の言語(英語を含む)、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

3. 教育目標

- ①自然を愛する優しい子ども
- ②情緒が豊かで明るい子ども
- ③よく考え、進んで行動する子ども
- ④仲良く遊び、協力し合う子ども
- ⑤身体が丈夫で逞しい子ども

4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ①安全で安心できる保育の提供
- ②園児や保護者との信頼関係の構築と、園生活の充実

5. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	備考
(1) 建学の精神や教育、保育理念に基づいた園の運営状況	A	
(2) 園の状況を踏まえた教育目標等の設定状況	B	
(3) 園の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	B	
(4) 学校行事の管理・実施体制の状況	B	
(5) 年間の指導計画や週案などの作成の状況	A	
(6) 遊具・用具の活用	B	
(7) ティーム保育などにおける教員間の協力的な指導の状況	B	
(8) 乳幼児に適した環境に整備されているかなど、クラス経営の状況		
(9) 幼保連携型認定こども園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況		
・環境を通して行う教育の実施の状況	B	
・園児との信頼関係の構築の状況	A	
・園児の主体的な活動の尊重	B	
・遊びを通しての総合的な指導の状況	B	
・一人一人の発達の特性に応じた指導の状況	B	

(10) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断の実施の状況	A	
(11) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	A	
(12) 法定の学校安全計画や学校防災計画等の作成・実施の状況	A	
(13) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	B	
(14) 安全点検や、教職員の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	A	
(15) 個別の指導計画の作成の状況	A	
(16) 家庭との連携状況	A	
(17) 園長など管理職の教育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、また、多くの教職員からの信頼の状況	A	
(18) 校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況	A	
(19) 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、また、教職員への情報の取り扱い方針の周知の状況	A	
(20) 学校保健法、労働基準法等の各種法令の遵守状況	A	
(21) 保育研究の継続的実施など、指導改善の取組の状況	B	
(22) 園内における研修の実施体制の状況	C	
(23) 園内研修の課題の設定の状況	C	
(24) 園内研修・園外研修の実施・参加状況	B	
(25) 指導が不適切である教員の状況の把握と対応の状況	A	
(26) 教育目標の設定と自己評価の実施状況 ・園児や園の実態、保護者の意見要望等を踏まえた園としての目標等の設定の状況 ・目標等を踏まえた自己評価の項目の設定状況 ・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているかなどの実施状況 ・自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況 ・全職員が評価に関与しているかなどの体制の状況 ・自己評価の結果の設置者への報告と状況	A A A A A	
(27) 園に対する保護者の意見・要望等の状況 ・保護者の満足度の把握の状況 ・教育相談体制の整備状況、保護者の意見や要望の把握・対応状況	A B	
(28) 園に関する様々な情報の提供状況	A	
(29) 園公開の実施の状況	A	
(30) 園児の個人情報の保護の状況	A	
(31) 学校評価結果の公表状況	A	
(32) 園便りやクラス便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況	A	
(33) 情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	B	

(34) 保護者の実情や要望による園の子育て支援活動の実施状況	B	
(35) 園や教職員による受け入れ体制の状況	A	
(36) 園の目的、教育課程との関連、園児の負担、家庭との連携等への配慮	B	
(37) 施設設備 ・施設設備の活用状況 ・設置者と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況 ・設置者と連携した園教育の情報化の状況	B A A	
(38) 遊具・用具・図書等 ・設置者と連携した遊具・用具・図書等の整備状況	A	

6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画の考察

結果	理由
B	<p>1. 安全で安心できる保育の提供 令和5年4月に開園し、新園での園生活がはじまるということで、園児や保護者の不安や戸惑いも多くあるように感じた。今までの保育環境の違いによるものが大きかったようだが、まずは園児の安全を最優先に考え、安心した保育を提供できるよう努めた。また、職員ミーティングを通して、子ども達の状況把握や保護者からの要望等を共有し、改善が必要な場合は話し合いを重ね安全な園生活が送れるよう配慮した。</p> <p>2. 園児や保護者との信頼関係の構築と、園生活の充実 全園児が新入園児ということもあり、子ども達との関わりを大切にしながら保育を行った。入園当初は、他の保育施設で様々な保育経験がある子や、初めて集団生活を経験する子もいた為、園生活に慣れるまでは無理なく活動を進め、子ども達が毎日を楽しく過ごせるよう努めた。一年を通して、日々の保育の中で基本的生活習慣が身に付き、園内行事においてはお友達を思い合ったり、保育者をお手伝いする等、思いやりの心が芽生えたように感じる。また、前年度まではコロナ禍ということもあり、はじめて行事を経験する子も多く、職員も共に試行錯誤しながら行った。園生活や様々な行事での自信に満ちた姿から、子ども達一人ひとりの成長がみられ、日々の取り組みが良い経験になったと感じた。 開園初年度ということもあり、保護者からの問い合わせ等も度々あったが、園の方針のもと丁寧に回答し対応した。しかし、要望の中には園での対応が困難な事もあり、保護者へ伝えた際に納得を得られなかったこともあった。当園では、沢山の乳幼児を預かっているため、一人ひとりの要望に応えることは難しい場合もあるが、保護者の気持ちに寄り添い、より良い保育が提供できるよう取り組んでいきたい。</p>

7. 総合的な評価結果

- ・広い園庭で伸びのびと遊び、特色ある保育・教育を経験することで、心身ともに成長したように感じた。今後は、子ども達が主体的に活動できる環境構成を設定できるよう努めたい。
- ・各行事では、子ども達一人ひとりが同じ目標に向かって取り組むことが出来た。
 日々の保育や行事を通して、それぞれが成長したように感じたが、日常生活の中で基本的な生活習慣が身につくよう、園と家庭で連携をとりながら指導できるようにしていきたい。
- ・開園初年度ということもあり、職員ミーティングでは保育内容の確認や行事の取り組みについての話し合いが主となっていた。次年度は、職員研修を充実させ、日々の保育に活かせるよう努めたい。

8. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
基本的生活習慣の確立	家庭と連携をとりながら、基本的生活習慣の確立(食事・睡眠・排泄・清潔・着脱)に努める。また、挨拶をすること、約束を守ること、物を大事にすること等、人として大切なことが身につくように、日々の保育の中で指導していく。
「生きる力」の土台を育む	相手を思いやる気持ちや、お友達同士協力して一つのことをやり遂げる経験等を通して、社会性や生きる力、協働性を育む。
園内研修の充実	園内研修を定期的に行い、職員の学びの場を設けたいと思う。また、研修で得たことを日々の保育の中で活かし、より良い保育が行えるように努める。

◎「4.5」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である